

令和8年5月8日
大阪公立大学医学部附属病院

中心静脈ポート（CVポート）が在宅での自己注射を行う上で、適切ではない位置に造設され、再造設が必要になった事例について

当院において、医師間の同意書記載内容の情報共有が不十分であったことにより、在宅自己注射のための中心静脈ポート（CVポート）が不適切な位置に造設され、再造設が必要になった事例が発生しましたので、ご報告いたします。

この事例におきまして、速やかに医療安全に関する会議を開催し、原因分析および再発防止策の検討を行いました。その結果、適切に在宅自己注射を行うためのCVポートの位置を反映した同意書へ改訂するとともに、処置直前に患者さんと確認できる仕組みについて検討を進めております。併せて、主治医と処置医が確実に情報共有を行い、適切にCVポート造設ができる体制を整えてまいります。

患者さん、ご家族をはじめ関係者の皆様には、今回このような事態を招いたことを深くお詫び申し上げます。今後このようなことが再び起こることのないよう、再発防止に全力で取り組んで参ります。